

# 西要寺だより

第116号 令和6年10月18日



「西要寺だより」をお届けします。10月に入り、少しずつ暑さも和らいできました。また日の暮れるには随分、早くなってきましたね。今号は「地獄の話」「盂蘭盆会法要のご報告」「東寺に行ってきた話」です。

## ●地獄について

今夏の頃に、西要寺のホームページから以下のような質問が来ました。

「以前、先生方が、地獄と言うのは概念だという方と、地獄と言う存在を信じなければ仏教ではないという方がございました。どちらでしょうか。」

そこで、以下のように答えておきました。

確かにそうですね。地獄について、質問をしたくなるお気持ちはわかる気がします。

地獄に行って帰ってきた人がいないということもあるので、地獄の存在は私たち人間にとってわかりませんね。

ただ古来より来世の地獄の存在は信じられてきました。しかしながら、現代においては人びとや社会にあわせて、様々な側面から、多様な話がされてきています。ですから、地獄と言うのは概念だということと、地獄と言う存在を信じなければ仏教ではないということの、どちらが正しいかではなく、どちらも正しいと言えます。

「地獄というのは概念だ」とは、現に生きているその空間が因と縁によって地獄にもなるということだと思います。つまり、それは「地獄」という物事の考え方・捉え方（概念）を知り、受け入れることを意味します。それが、仏教を信じるということで、教えを判断基準に人生を歩んでいくというのが仏教徒であると言えるでしょう。地獄という空間があることをひたすら盲信することが仏教の本質ではありません。

因と縁によって、「今」があり、この先の「未来」があるという仏教の道理



に従って、地獄というものがあると知らされます。それを知って受け入れる（信じる）なら、自らの生き方の中にその地獄行きの因があるのではないかと、自身のところに問うていく生き方が開かれていきます。そこが重要であると、それぞれの立場から「地獄」という話をされたのではないかと思考します。

今後ともこういう純粋なお気持ちを大事にされて、仏教の教えに触れていただきますと嬉しく思います。

以上です。是非とも参考になさってください。

### ●盂蘭盆会法要のご報告

8月13日14日15日の3日間、盂蘭盆会法要をお勤めしました。今年は非常に暑い夏で、お盆の時期も猛暑というよりも、酷暑以上の暑さでした。それにも関わらず、多くの門徒さんがお参りに来て下さいました。

今年も11時から『仏説阿彌陀經』をお勤めし、その後、12時まで住職が「お釈迦さまと阿彌陀さま」の話をしました。

お釈迦さまは、実在した歴史上の人物で、約2500年前にインドで生まれ、真理に目覚めた存在（さとりを開かれた方）です。人々の悩みに応じた教えを説く「お医者さん」のような存在であり、阿彌陀さまという仏の存在を教える先生的な役割を果たします。

阿彌陀さまは歴史上の人物ではありません。

「私たちを救うはたらき」として存在しておられ、そのはたらきを私たちに気づかせるために、人格的な存在としてあらわれてくださっています。人々の苦しみをそのまま受け止めて救ってくださる仏さまなのです。

お釈迦さまは、王子として裕福な生活を送りながらも、人生の苦しみ（老・病・死）に直面し、それを解決するために出家されました。6年間の修行のすえ、煩惱を克服し、真理に目覚められました。お釈迦さまはさとりを開かれた後、他者を救うために阿彌陀さまの話などを説かれます。いま仏教は世界宗教の一つとなっているように、お釈迦さまが説かれた教えは、多くの国の人々の生きる依りどころとなっているのです。



## ●東寺に行ってきました

「東寺に行ってきました」という話がある門徒さんにしたら、「え、浄土真宗以外のお寺に行っているのですか？」と言われました。そこで、私は信仰とは別という意味で、「拝観に行ってきました」と答えました。

そもそも東寺は、平安時代に奈良から京都に遷都した時に建立されました。平安京を築いた桓武天皇の後に即位した嵯峨天皇は、東寺を弘法大師空海に託しました。ここに真言密教の根本道場（こんぽんどうじょう）東寺が誕生します。



そこで空海は、大伽藍の建立という大事業を始めます。まず、密教の中心伽藍となる講堂の建立に着手し、続いて五重塔の工事に取りかかります。講堂は、密教を伝え広めるために建立され、そこには仏の世界観を三次元で視覚的に表されている立体曼荼羅（まんだら）が安置されています。実際に目にすると、如来、菩薩、明王、天の神々の厳かなお姿に感動しました。

親鸞聖人は、鎌倉時代に天台宗の比叡山で修行をされますが、当然、東寺のこともご存じで、空海によって設計された東寺の大伽藍、立体曼荼羅も見ておられたことでしょう。私も実際に東寺に足を運び、仏教の多様性に触れることができ、良い学びでした。

## ●今号を書き終えて・・・

暑いですね、と挨拶代わりに言っていました。先日の住職会で12月の忘年会の話が出てきました。あと2ヵ月半で正月が来ます（10月15日執筆現在）。一年は早いです。

正月の少し前の、12月22日には新企画「仏像講座」を開催します。11月22日には「御文章」のお話があります。何となく、お寺の法座・法要に行きにくいな、と思っておられる方も、まず第一歩を踏み出そうではありませんか。最初はどうしても難しい話に感じることでしょう。しかし、だんだんと慣れてきますので、心配はいりません。是非とも、お参りください。

◎西要寺行事予定◎

【報恩講法要】

10月20日（日）21日（月）両日ともに午後2時より

講師：岡村喜史師

（中央仏教学院講師 本願寺史料研究所上級研究員）

場所：西要寺本堂

【定例法座】

11月22日（金）午後2時より

講師：西村 慶哉師

（龍谷大学世界仏教文化研究センター研究員）

場所：西要寺本堂

【仏像講座】

12月22日（日）午後2時より

講師：天岸 淨圓師

（行信教校校長）

場所：西要寺本堂

ホームページ（[saiyouji.com](http://saiyouji.com)）



または <sup>さいようじ</sup>西要寺 と検索ください。

浄土真宗本願寺派 <sup>さいようじ</sup>西要寺

661-0024 尼崎市三反田町1-7-27

TEL 06-6429-8241